

風変りな作品に就いて

芥川龍之介

青空文庫

「貴君あなたの作品うちの中で、愛着あいちやくを持つてゐらつしやるものか、好きなものはありませんか」と云はれると、一寸ちよつと困る。さういふ条件の小説を特別とくべつに選り出す事は出来ないし、又特別に取扱はなくてはならない小説があるとも思へない。第一、自分の小説といふものを考へた時に、その沢山たくさんな小説の行ぎやう列れつの中から、特に、私わたしが小説で御座ござると名乗つて飛び出して来るものも見当らない。かう云ひ切つて了しまふと、折角せつかくの御尋ねに対する御返事にはならないから、さう大袈裟おほげさな問題として取扱はないで、僕の書いた小説うちの中で、一寸ちよつと風変りなものを二つ抜き出して見ることにする。

自分の小説は大部分、現代普通に用ひられてゐる言葉で書いた

ものである。例外として、「奉教人の死」と「きりしとほろ上ほうけうにんやうにん

人伝」とがその中に這入る。両方とも、文禄慶長の頃、ぶんろくけいちやう

天草や長崎で出た日本耶蘇会出版の諸書の文体に倣つて創作あまくさながさき

したものである。

「奉教人の死」の方は、其宗徒の手になつた当時の口語訳平家物語にならつたものであり、「きりしとほろ上人伝」の方は、伊曾いそ保物語に倣つたものである。倣つたといつても、原文のやうに甘ぼくは書けなかつた。あの簡古素朴な氣持が出なかつた。

「奉教人の死」の方は、日本の聖教徒の逸事を仕組んだものであるが、全然自分の想像の作品である。「きりしとほろ上人伝」の方は、セント・クリストフの伝記を材料に取入れて作つたもので

ある。

書き上げてから、読み返して見て、出来不出来から云へば、

「きりしとほろ上人伝」の方が、いいと思ふ。

「奉教人の死」を發表した時には面白い話があつた。あれを發表したところ、随ずあふん分ぶんいろいろな批評をかけた手紙が舞ひ込んで来た。中には、その種たねほん本ほんにした、切利支丹宗徒キリシタンの手になつた、ほんものの原文を蔵してゐると感違あやまひをし、五百円の手附金を送つて、買入れ方を申込んだ人があつた。氣きのどく毒どくでもあつたが可笑をかしくもあつた。

その後ご、長崎の浦うらかみ上の天主教会のラゲといふ僧侶に出會つたことがあつた。その際、ラゲさんと「きりしとほろ上人伝」の話

を交した。ラゲさんは、自分の生しやうこく国が、クリストフが嘗て居住してゐた土地であるといふ話し等などが出たので、一寸ちよつと因縁いんねんをつけて考へたものであつた。

将来どんな作品を出すかといふ事に対しては、恐らく、誰たれでも確かな答へを与へることは出来ないだらうと思ふ。小説などといふものは、他の事業とは違つて、プログラムを作つて、取りかかわる訣にはゆかない。併し、僕は今後、ますます自分の博学わぶりを、或は才人ぶりを充分に發揮はつきして、本格小説、私小説わたくし、歴史小説、花柳くわりう小説、俳句、詩、和歌等とう、等と、その外知ほかつてるものを教へてくれれば、なんでもかきたいと思つてゐる。

壺つぼや皿や古画等などを愛玩して時間が余れば、昔の文学者や画家の

評論も試みたいし、盛んに他の人と論戦もやつて見たいと思つてゐる。

斯くの如く、僕の前途は遙か^{はる}に渺茫^{べうぼう}たるものであり、大いに将来有望である。

(大正十四年十二月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。

風変りな作品に就いて

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>